

我が県土
支え育む
希望郷



美しい

県土づくりNEWS

目次

- 2 一般国道 340 号 立丸峠工区完工式典を開催しました
- 4 【復興支援道路】一般国道 397 号(仮称)新小谷木橋
上部工工事の安全祈願祭開催！！
～未来につなげる希望橋(仮称)新小谷木橋～
- 6 岩手労働局・岩手県・建設労働災害防止協会岩手県支
部工事合同安全衛生パトロールを実施！
- 7 「世代をつなぐ防災・住まいの耐震授業」を開催しました
- 9 優良工事 21 件を表彰
- 11 「建設業新分野進出等表彰式」を開催！
- 12 第 15 回土木合同セミナー「進む建設 ICT」を開催しました！
- 13 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！
【第 14 回】復興道路・復興支援道路の事業化までの取組

2018 年

12 月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 173 号
平成 31 年 1 月 4 日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

一般国道 340 号 立丸峠工区が全線開通！ ～遠野市～宮古市間のアクセスが大きく向上～

一般国道 340 号は、北上高地を縦断する唯一の幹線道路です。特に遠野地域では、内陸と沿岸を結ぶ交通の要として利用されてきましたが、立丸峠区間は未だ幅員が狭く、急カーブが連続するなど交通の難所となっていました。

立丸峠工区は、平成 24 年度から復興支援道路として整備を進めてきたところですが、11 月 29 日に、大峠地区が開通し全線開通となりました。

2つのトンネルを含む約 5.2km の整備により交通の難所だった峠道が解消され、交通の安全性向上や約 6 分の時間短縮が見込まれます。これによって、地域間の交流や連携が促進され、物流や防災、周遊観光の活性化などの波及効果が生まれることが期待されます。



多くの関係者のご列席のもと行われた完工式典において、テープカット・くす玉開披

一般国道340号立丸峠工区 完工式典を開催しました

県南広域振興局土木部遠野土木センター

復興支援道路に位置付け整備を進めてきた一般国道340号『立丸峠』工区は、これまで、新田地区、小峠地区が供用済みですが、この度、立丸第一トンネルを含む大峠地区が平成30年11月29日（木）に開通し、全線開通しました。

開通当日に開催した完工式は、天候にも恵まれたなか、多数の関係者に出席していただき盛大に行われました。

式典終了後、開通記念パレードを行い、住民悲願であった道路の開通を祝いました。

そして、14時に供用開始し、開通を心待ちにした道路利用者が通行し、無事に開通を迎えることができました。



岩手県知事式辞



復興庁 岩手復興局長祝辞



遠野市長祝辞



宮古市長祝辞

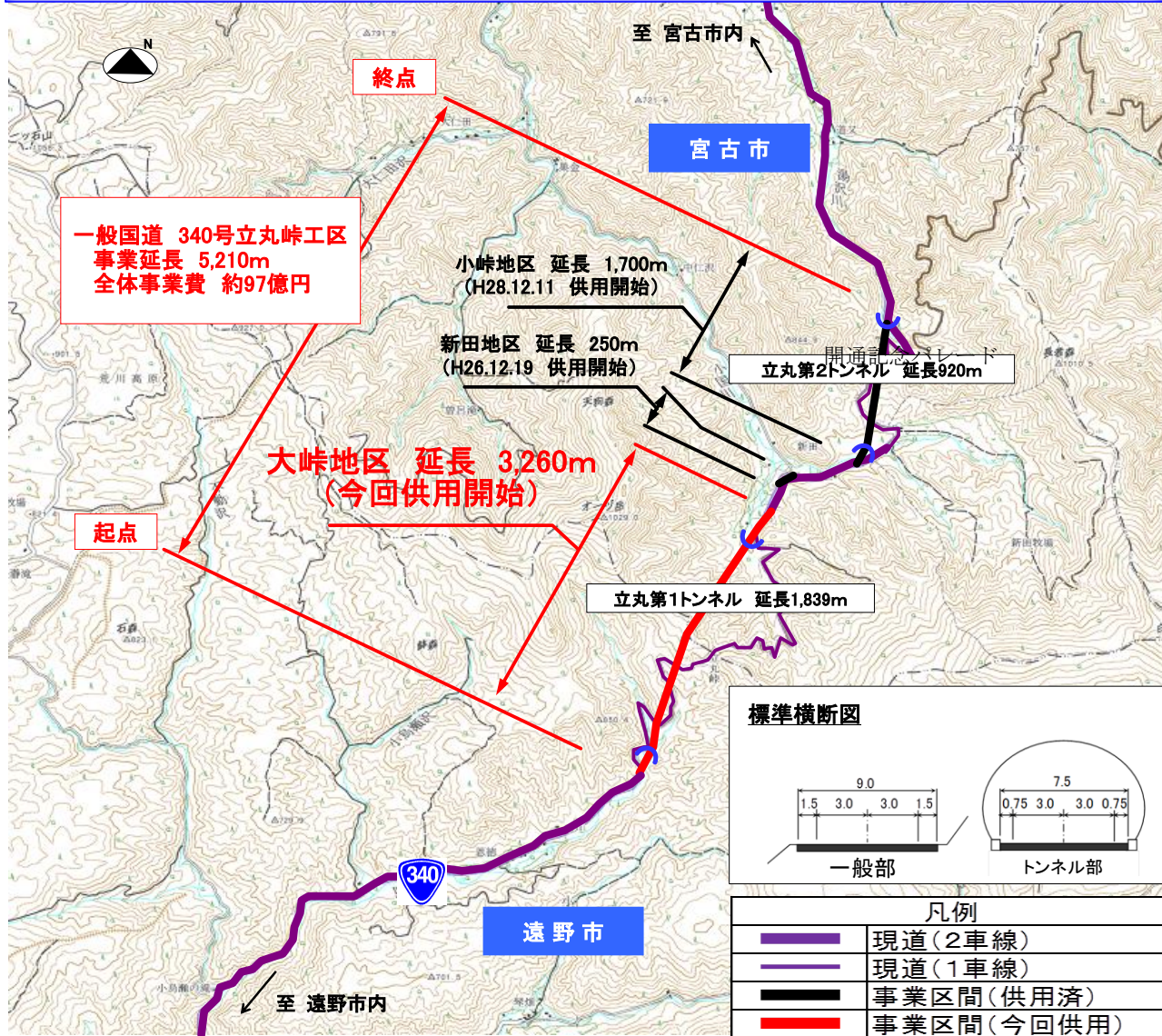


岩手県議会議長祝辞



遠野土木センター所長事業経過報告

一般国道340号『立丸峠』工区の事業概要



【立丸峠工区の整備効果】

- 急カーブ、急勾配、狭隘（最小幅員 3.3m）等交通の難所である峠道の解消による**安全で円滑な交通の確保**
- 時間短縮等（約4kmの距離短縮、約6分の時間短縮）



【復興支援道路】

一般国道397号(仮称)新小谷木橋 上部工工事の安全祈願祭を開催しました

～ 未来につなげる希望橋 (仮称)新小谷木橋 ～

県南広域振興局土木部

「復興支援道路」として奥州市水沢で整備を進めている一般国道397号(仮称)新小谷木橋(L=597.0m、以下「新小谷木橋」という。)は、下部工(全11基)が全て完成し、上部工の工場製作等を進めてきました。12月17日、上部工の架設工事への着工に伴い、工事受注者(JFEエンジニアリング(株)・北日本機械(株)特定共同企業体)主催による安全祈願祭を開催しました。

安全祈願祭には、県、奥州市、地元関係者、工事関係者等約50人が出席し、鍬入れや玉串奉奠等で工事の安全と早期完成を祈願しました。

また、安全祈願祭後の着工セレモニーには、現場近隣の小学校の児童にも参加していただき、児童を代表して、羽田小学校6年の小山田^{ゆうと}悠音さんから「僕らの明日への架橋に」と題した作文を発表していただきました。

小山田さんからは、「僕達は、昨年、橋脚にメッセージを残しました。新しい橋を通して中学校に通うことを夢見ながら書いたことを今でも覚えています。橋が完成するには長い年月と多くの人々の労力が必要です。建設のために働く方々には、怪我や事故なく安全に働いていただきたいです。そしてみんなが喜ぶ素敵な橋を造ってくださるようお願いします」とのメッセージをいただきました。

その後、県南広域振興局幸野土木部長による指示の下、工事受注者及び参加した児童全員による「着工号令」で大型クレーンが動き出し、新小谷木橋の上部工架設工事に着工しました。

県では、新小谷木橋の2020年度の開通を目指し、引き続き全力で事業を推進していきます。



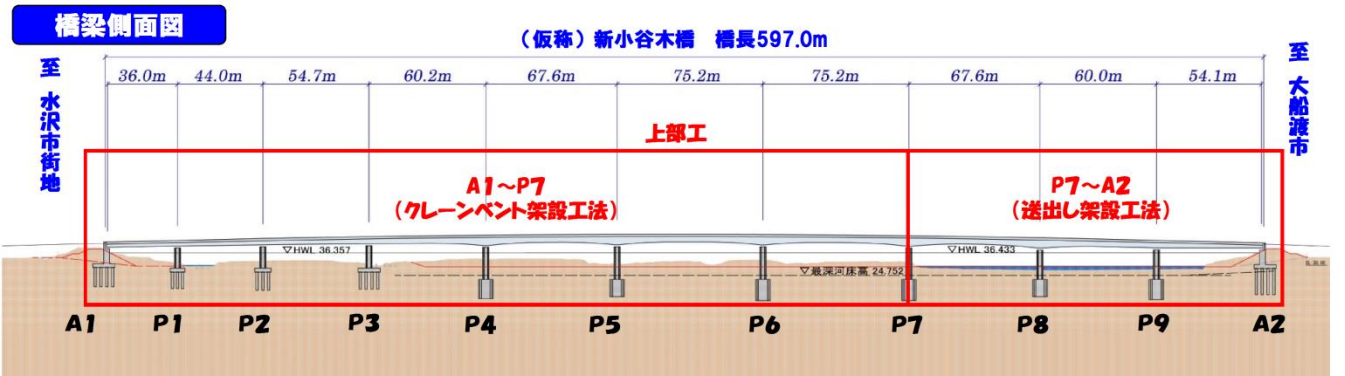
【小谷木橋工区の事業概要】

一般国道397号の小谷木橋(595.3m)は、昭和29年に架けられた橋梁であり、架橋から60年以上が経過して老朽化が著しいほか、幅員が狭く大型車のすれ違いが困難であるなど、安全で円滑な交通への支障が生じています。

また、東日本大震災の余震(平成23年4月7日)では、小谷木橋の橋脚が傾き、約4ヶ月間の全面通行止めとなるなど、甚大な被害が発生しました。

このため、県では、岩手県東日本大震災津波復興計画(三陸復興道路整備事業)で一般国道397号を「復興支援道路」として位置付け、平成24年度から(仮称)新小谷木橋(597.0m)の整備を含む小谷木橋工区の事業を重点的に進めています。

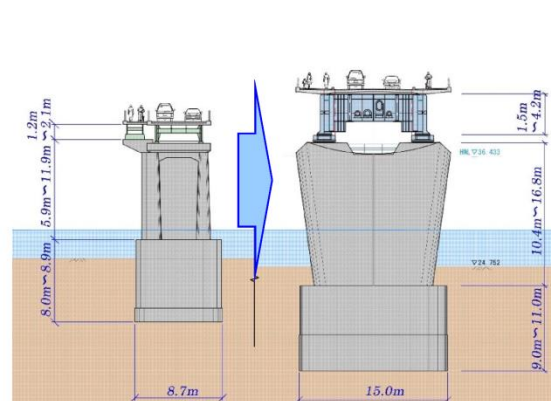
小谷木橋工区の事業計画



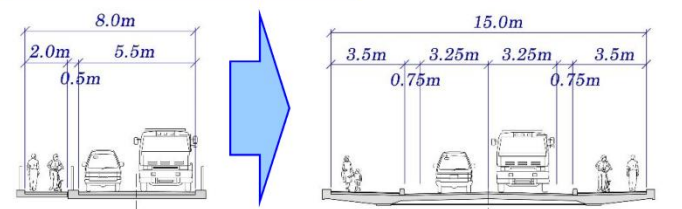
橋梁計画

名称	構造	
(仮称)新小谷木橋	延長(m)	597.0
	上部工	鋼10径間連続合成2主鉄桁
	下部工	逆T式橋台(杭基礎) 壁式橋脚(杭基礎、ケーソン基礎)

橋梁断面図



標準断面図(橋梁部)



「岩手労働局・岩手県・建設労働災害防止協会 岩手県支部工事合同安全衛生パトロール」を実施！

建設技術振興課

平成30年12月1日から平成31年1月31日まで実施する「いわて年末年始無災害運動」の一環として、岩手労働局・岩手県・建設業労働災害防止協会岩手県支部による三者合同安全パトロールを平成30年12月14日、一般県道大ケ生徳田線（仮称）徳田橋下部工（その2）工事の現場で行いました。



パトロール状況



足場点検状況（フルハーネス型安全帯着用）



受注者説明（工事概要、安全対策等）



パトロール終了後 八重樫県土整備部長 訓示

【平成30年1月～11月 死亡労働災害発生状況（岩手労働局管内）】

業種別	建設業9人 製造業1人 農林業2人 その他2人	合計 14人
監督署管内別	盛岡2人 宮古2人 釜石1人 花巻2人 大船渡2人 二戸5人	
事故の原因別	墜落・転落4人 転倒2人 はさまれ、巻き込まれ2人 交通事故2人 飛来・落下1人 崩壊・倒壊1人 激突され1人 その他1人	

パトロール実施後、訓示・講評が行われ、八重樫県土整備部長からは「本現場の安全対策は良好であった。工事技術は日に日に発達しており、安全に関する対策も実施しているところだが、労働災害の一番の原因は「慣れ、油断、過信」と考えられる。家に家族が待っていることを忘れず、基本的なところを注意し、日々の安全対策につなげてもらいたい。」との話がありました。

「世代をつなぐ防災・住まいの耐震授業」を開催しました

花巻土木センター建築指導課

花巻土木センターでは、花巻市及び一般社団法人岩手県建築士会花巻支部と共催で、防災意識の向上と地域の建物の安全対策の向上を図るため、管内の小学生を対象にした耐震授業を開催しました。

今年で11年目を迎える本授業ですが、今回は4月に新たに配備された「防災そばっちゃん」も登場し、これまでの授業内容に地震体験が加わったことで、より効果的な防災授業が行われました。

【講義の様子】

耐震授業は、大迫小学校と新堀小学校の2会場で行われ、計70名の小学生が参加しました。

大迫小学校では、隣接の内川目小学校と亀ヶ森小学校の三校合同で開催され、過去の地震被害の様子を、スライドを使い説明しました。

平成7年に発生した阪神淡路大震災では、被害の多くが建物の倒壊によるものでした。また、東日本大震災では、津波、地盤沈下や建物の倒壊などが多数発生しました。

今回の講義では、いつ起こるかわからない、大地震による建物の倒壊について、自ら体験することによる身近な防災への学びや、その予防策の一つである建物の耐震診断と耐震補強の重要性を伝えました。

【梁持ち上げ体験】

講義の後は、実際の建物に使用されている梁の持ち上げ体験と模型を使った耐震補強効果の体験学習が行われました。

梁の持ち上げ体験では、長さ約4m、重さ約100kgの梁を二人一組で持ち上げる体験が行われ、児童たちは、想像以上の重さに、あらためて建物倒壊の怖さを感じていました。

【耐震補強効果の体験（大型模型）】

大型模型では、自分達の力で模型を押し、耐震補強前と補強後の建物の揺れの違いを確認し、筋交いとボードにより補強した建物は、全く揺れないことに驚いていました。



講義の様子



梁持ち上げ体験



補強効果の体験（大型模型 補強後）

【耐震補強効果の体験（小型模型）】

小型模型では、耐震補強前と補強後の建物の倒壊のし易さを確認し、補強の効果を実感していました。

補強効果の体験（小型模型）



①耐震補強前の建物



②揺らしてみると、簡単に建物倒壊！



③みんなで耐震補強



④補強後は、揺らしても建物倒壊無し！

【「防災そばっち号」地震体験】

地震体験では、震度5強では平気な小学生も、震度6強では驚いた様子でした。



「防災そばっち号」



地震体験

【児童達の感想】

- 模型での体験を通じて、耐震補強の効果と重要性について理解できました。
- 今日学んだことを家に帰ってから親に話して、自分の家が耐震補強されているのか確認することや、身近な防災について家族で話をしようと思いました。
- 大きな地震の体験をすることができたので、実際の地震が起きた時は、落ち着いて行動しようと思いました。

優良工事 21 件を表彰

～ 優良県営建設工事表彰 ・ 優良下請負企業表彰 ～

建設技術振興課

平成 30 年 12 月 19 日、エスポワールいわてにおいて、平成 30 年度「優良県営建設工事表彰」と「優良下請負企業表彰」を行い、保副知事から表彰状と記念品の伝達を行いました。

「優良県営建設工事表彰」は、建設業の健全な発展とその施工技術の向上に資することを目的として、昭和 57 年度から実施しているもので、今年度で 37 回目となります。

今回は、平成 29 年度に完成した、請負額 1,000 万円以上で、かつ工事成績評点 85 点以上の県営建設工事を対象とし、優良県営建設工事表彰審査会（庁内委員と外部有識者で構成）において審査され、「総合的に工事成績が良好で他の模範となる県営建設工事」と認められた **21 工事 21 者**が受賞企業として選定されました。

「優良下請負企業表彰」は、県内建設業者の施工技術の向上による公共工事の品質確保及び健全な元請下請関係の構築を目的として平成 21 年度から実施しているもので、今回で 10 回目となります。審査対象は、「優良県営建設工事表彰」の対象工事を施工し、今年度の受賞企業として内定した元請負企業から推薦のあった下請負企業です。優良県営建設工事表彰審査会における審査を経て、**9 工事 10 者**が受賞企業として選定されました。

表彰式には、受賞企業の代表者のほか、工事発注公所等の担当者も多数出席し、受賞企業の優れた業績をたたえました。

【受賞工事・企業一覧】

部門	表 彰 工 事	請 負 業 者	優 良 下 請 負 企 業
土木	一般国道 107 号細内地区路面変状対策工事	旭ボーリング(株)	—
土木	農地整備事業（経営体育成型）川又地区第 4 号工事	(株)アルバライフ	(株)青岩建設
土木	主要地方道大船渡広田陸前高田線久保～泊地区道路改良その 3 工事	EC 南部コーポレーション(株)	山一建設(株)
土木	主要地方道盛岡環状線岩姫橋橋梁補修工事	(株)内澤建設	—
土木	山口地区復旧治山工事	(株)かばら	—
土木	一般国道 281 号案内地区道路改良舗装工事	蒲野建設(株)	—
土木	集落基盤整備事業（地域用水型）鹿妻新堰地区第 12 号工事	昭栄建設(株)	—
土木	経営体育成基盤整備事業外台地区第 4 号工事	成和建设(株)	高田工業(株)
土木	一般国道 397 号扇沼橋耐震補強工事	高惣建設(株)	(株)一騎工業
土木	山田漁港災害復旧（23 災県 599 号その 3）ほか工事	(株)タカヤ	—
土木	一般国道 395 号赤石峠地区道路改良舗装工事	南建設(株)	(有)瀧音建設工業
土木	経営体育成基盤整備事業次丸地区第 10 号工事	(株)横沢工業所	(株)オイカワ技建

部門	表彰工事	請負業者	優良下請負企業
舗装	一般県道一戸浄法寺線月舘地区ほか舗装補修工事	(株)中舘建設	—
グROUT	一級河川小猪岡川筋小猪岡2号砂防堰堤修繕工事	(株)平野組	岩手試錐工業(株)
法面処理	下町向地区治山激甚災害対策特別緊急工事	県北緑化(株)	—
法面処理	森林管理道平根山線(第1工区)法面工事	(株)たかしん興業	—
建築	県営天下田アパート(1号棟)リフレッシュ(建築)工事	(株)照甲組	—
建築	県営備後第1アパート(8号棟)建設(建築)工事	樋下建設(株)	(有)浪岩工業所
建築	岩手県立高田病院等新築(建築)工事	(株)平野組・大森工業(株)特定共同企業体	—
電気設備	岩手県立高田病院等新築(電気設備)工事	(株)金澤電気工業所・岩手電工(株)・共立電気(株)特定共同企業体	(株)佐藤電設 盛岡ニッタン(株)
管設備	岩手県立高田病院等新築(機械設備)工事	オヤマ インジニアリング(株)・富士水工業(株)・(株)近藤設備特定共同企業体	—

知事式辞(保副知事代読)



表彰状授与



記念撮影(優良工事)



記念撮影(優良下請負企業)



「建設業新分野進出等表彰式」を開催！

建設技術振興課

平成30年12月19日、エスポワールいわてにおいて、「平成30年度建設業新分野進出等表彰式」を開催しました。表彰式では、最優秀賞1社及び優秀賞2社を表彰し、保副知事から表彰状と記念品の伝達を行いました。

本表彰式は、県内建設企業の経営体制の強化への取組意欲を喚起し、構造改革の推進を図ることを目的として、平成17年度から実施しているもので、今年度で14回目となります。

【今年度受賞企業】

1 最優秀賞（1社）

分野	企業名	事業内容
農林水産	(有)藤岡建設	にんにく栽培・加工品「黒にんにく」製造販売事業

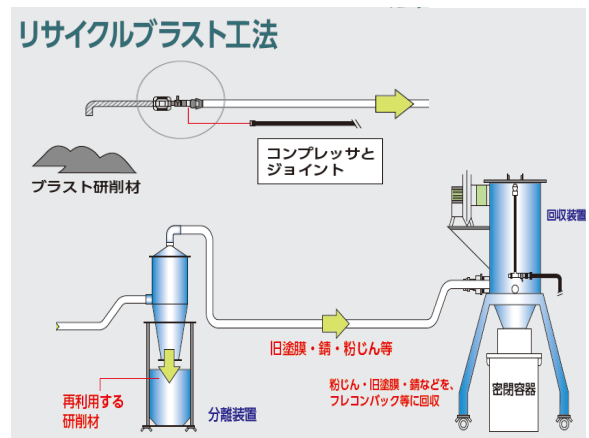
2 優秀賞（2社）

分野	企業名	事業内容
建設（技術・工法、リフォーム等）	(株)瀧田屋	塗替によるインフラ維持補修における「環境配慮型リサイクルブラスト工法」の開発・推進事業
サービス関連（小売・飲食、サービス等）	森田建設(株)	自社所有農園と受託農園のぶどうを使用したワイン及びジュース卸小売販売事業

表彰事業 (有)藤岡建設



表彰事業 (株)瀧田屋



表彰事業 森田建設(株)



記念撮影



第15回土木合同セミナー「進む 建設ICT」 を開催しました！

土木合同セミナー実行委員会事務局（盛岡広域振興局土木部）
平成30年12月5日（水）、「エスポワールいわて」において、第15回土木合同セミナーを開催しました。行政、建設業、測量設計業など各団体から194名の参加をいただきました。

セミナーでは、県内企業の先進的な取組事例や盛岡広域振興局土木部発注工事におけるICT施工をテーマに講演いただきました。



UAV活用による合理的な河川調査・管理法と 河川災害時における3Dデータ利活用について

株式会社タックエンジニアリング

技術部地理空間情報課長 原田 昌大 氏

- ・ 県北広域振興局土木部管内で実施した固定翼UAVによる3Dデータ計測と解析事例を紹介。
- ・ 固定翼UAVによる測量は、他の測量手法と比べ経済性・効率性に優れ、県内中小河川を網羅するには現実的な選択肢。
- ・ 3Dデータから自動的に数量算出できるなど、受発注者双方にメリットのある仕組みづくりが必要。



一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業における ICT施工について

株式会社水清建設土木部長 大巻 照雄 氏

株式会社エヌティーコンサルタント

地理空間情報室 課長 菊池 晴圭 氏

- ・ ICT活用工事として盛岡広域振興局土木部が発注した一級河川岩崎川筋又兵エ新田地区河川改修（その7）工事について、施工者、コンサルタントそれぞれの立場でメリットや課題を報告。
- ・ 大巻氏は、施工者の立場からICT施工は、丁張が減ることで作業員の視覚的な情報が減るものの、総括すれば丁張の省略、手元スタッフの削減、精度の向上など作業効率アップにつながる利点があると述べた。
- ・ 菊池氏は、コンサルタントの立場から、測量設計段階から統一した3Dを作成することで作業の効率が向上する、すべての工程でi-Constructionが浸透すればよいと提言。



画像提供：(株)日刊岩手建設工業新聞社

【主催】土木合同セミナー実行委員会

【構成団体】岩手県盛岡広域振興局土木部、(公財)岩手県土木技術振興協会、(一社)岩手県建設業協会盛岡支部、(一社)岩手県測量設計業協会、(一社)岩手県土木技術センター、(株)日刊岩手建設工業新聞社

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第 14 回】

釜石道特集③

復興道路・復興支援道路の事業化までの取組

Q 復興道路・復興支援道路はかつてないスピードで整備が進められていると言われますが、「かつてないスピード」ってどれくらい早いのですか？

A まずは、復興道路等の事業化（復興道路等の予算成立）までの経緯を見てみましょう。

復興道路等の事業化までの経緯

日時	内容
H23.3.11	東日本大震災津波発生
H23.3.31	達増知事が地元新聞インタビューで復興道路について初めて発言
～ 岩手県県土整備部内で検討 ～	
約 2 週間！	
H23.4.16	大畠国土交通大臣（当時）被災地視察 → 三陸道や釜石道等を復興事業として位置づけて早期に全線開通させるよう要望
H23.4.30	第 3 回東日本大震災復興構想会議で岩手県から復興道路の整備について提言
H23.7.1	大畠国土交通大臣の記者会見 三陸道を復興のリーディングプロジェクトとして、早期の整備が必要としたうえで、おおよそ 10 年をめどに完成させる方針を示す
H23.7.22	三陸道に加え、釜石道等概ねのルート公表
H23.11.21	平成 23 年度 第 3 次補正予算成立

国への要望から約 7 か月で復興道路等の事業化が実現！

A 県は、発災からまもなく国に復興道路等の整備について要望し、国土交通省と協力して検討を進め、要望から約 7 ヶ月後に事業化となりました。

A そして、かつてないスピードを表したのが事業化したその年度に工事着手する「即年着工」です。

道路事業の着工までのプロセス（イメージ）

	事業化前	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目～
通常事業	予算成立 ★事業化	測量	設計	用地取得	工事
復興事業		予算成立 ★事業化 測量	設計 用地取得	工事	

事業促進 PPP（官民連携、公民協働）

着工まで通常の 4 倍以上のスピード！

★即年着工！

☆うんちく Point

国の資料では、通常の場合、事業化から工事まで平均 6.4 年、工事に 8 年で開通まで約 15 年。震災後、2011 年 11 月に事業化され山田宮古道路は、6 年で開通しました。

Q たくさんある道路のなかで三陸道や釜石道が復興道路等として事業化となったのはなぜですか？

大きな理由としては、平成 23 年 3 月 5 日に開通した「釜石山田道路」をはじめとする三陸道や釜石道が、災害発生時に「命の道」として有効に機能したことによります。

A

【命の道】

本県沿岸には、国道 45 号が大動脈として縦断していますが、標高の低い区間が多く、今回の震災により、多くの区間が通行不能となりました。

一方、平成 23 年 3 月 5 日開通した「釜石山田道路」をはじめとする三陸道や釜石道については、**損傷がほとんどなく、津波襲来時の避難道路**やその後の**緊急物資の輸送道路**として極めて有効に機能したほか、**地域住民の避難路**として利用されました。

津波に対して想定した効果を発揮し、まさに「命の道」として機能しました。



▲釜石山田道路 (H23.3.5開通)

Q どうして「即年着工」が可能となったのですか。

- 「即年着工」の原動力は以下のとおりです。
- 地元の協力と熱意
 - 国の理解・予算上の配慮
 - 国・県・市町村が一体となった事業推進（復興道路会議）
 - 官民連携（事業促進 PPP）
 - 各プロセスの並列進行
 - 全国から直轄事務所への応援

A

釜石道の釜石 IC～釜石西 IC の着工 (H24.11.4) から始まり、**事業化から2年以内**に県内の三陸道、釜石道の**全区間**が着工しました。

A

告知!

(H31.1.19)「岩手の未来を切り拓く復興道路シンポジウム」開催!

これまで3ヶ月に渡り特集してきた釜石道は、多くの関係者の多大なる理解・協力のもとに、今年度全線開通します。

釜石道は国の復興道路・復興支援道路で**初の全線開通**で、沿岸と内陸を結ぶ**初の高速道路**です。

本シンポジウムは、復興道路等の事業化から着工、そして開通に至るまでの取組をお知らせするとともに、復興道路等のストック効果や今後への期待を市民、県民の皆さんから発信してもらうことを目的に、本県で開催する**初の復興道路シンポジウム**です。

東日本大震災津波発災時の国土交通省の対応や県民目線で復興道路等に今後期待することなどを聴講できる機会ですので、ぜひお越しください（詳細は別添チラシをご覧ください）。

岩手の未来を切り拓く 復興道路シンポジウム

～沿岸と内陸を結ぶ釜石道全線開通へ～

日時 平成31年1月19日(土) 13:30～16:00

会場 釜石市民ホールTETTO **入場無料**

(釜石市大町1-1-9)

※お車で越しの方は近隣の駐車場をご利用ください。

○オープニングイベント

両石虎舞 (両石虎舞保存会)

○第1部 基調講演

テーマ 「本物の復興をなし遂げるために」

講師 徳山 日出男 政策研究大学院大学 客員教授
Hideo Tokuyama (元国土交通事務次官)



【略歴】 東日本大震災津波の発災時の国土交通省東北地方整備局長。
当時、被災者救援の陣頭指揮を執られたほか、復興道路全線事業化やその後のかつてない
スピードでの整備に多大な尽力をいただいた、復興道路の生みの親。

○第2部 パネルディスカッション

テーマ 「つながる復興道路、これからの釜石・岩手」

アドバイザー：徳山 日出男

出演者プロフィール



コーディネーター

千葉 星子
Seiko Chiba



パネリスト

岩崎 昭子
Akiko Iwasaki
宝来館 女将



パネリスト

桜庭 吉彦
Yoshihiko Sakuraba
釜石シーウェイブス
ゼネラルマネージャー
兼監督



パネリスト

岩間 英治
Hideharu Iwama
釜石大槌地区行政
事務組合消防本部
総務課長



パネリスト

沼崎 健
Takeru Numazaki
元釜石東中学校生徒会長、
語り部

○震災当時の体験
○大きく変わっていく
道路ネットワークを
どう活用していきたいか etc

※敬称略 ※パネリストは「五十音順」

主催：岩手県・釜石市

後援：岩手日報社、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、河北新報社、岩手日日新聞社、産業経済新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、時事通信社盛岡支局、釜石新聞社、盛岡タイムス社、日刊岩手建設工業新聞社、一般社団法人共同通信社盛岡支局、デーリー東北新聞社、テレビ岩手、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、三陸ブロードネット株式会社、エフエム岩手、岩手県高規格幹線道路整備促進期成同盟会、東北横断自動車道釜石秋田線釜石・花巻間建設促進期成同盟会、大船渡・釜石・大槌・山田間三陸縦貫自動車道整備促進協議会 (順不同)

問合せ：岩手県県土整備部道路建設設計画調査担当
釜石市建設部高規格幹線道路対策室

電話019-629-5868 (直通)
電話0193-22-2111 (内線416)

- 本県沿岸と内陸を結ぶ**初**の高速道路
 - 国の復興道路・復興支援道路で**初**の全線開通
 - 本県で開催する**初**の復興道路シンポジウム

シンポジウムの目的

未曾有の被害をもたらした東日本大震災津波から8年が経過しようとしています。復興のリーディングプロジェクトと位置づけられた復興道路・復興支援道路は、まさに「かつてないスピード」で整備が進められています。

平成30年度中には東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通が予定され、**史上初めて本県沿岸と内陸が高速交通体系で結ばれます。**

本シンポジウムでは、復興道路・復興支援道路の事業化から着工、そして開通に至るまでの取組をお知らせするとともに、復興道路等のストック効果や今後への期待を市民、県民の皆さんから発信します。



平成24年11月4日、「即年着工」起工式が行われた釜石道の釜石～釜石西も平成30年度中に開通します。

【岩手県内】復興道路等の開通状況



平成30年度中には釜石道の全線と三陸道の釜石以南が一本につながる予定です。

岩手の未来を切り拓く復興道路シンポジウム

参加申込書

シンポジウムに参加ご希望の方は、本紙をFAXいただくか、お電話またはメールにて下記よりお申し込みください。
※事前のお申し込みがない場合でも入場可能です。

【開催日時】平成31年1月19日（土）13時30分～16時00分
【会場】釜石市民ホールTETTO

会社名・学校名等			
御担当者名	参加人数	人	
御連絡先電話番号			

お申込：県庁県土整備部道路建設課計画調査担当
FAX：019-629-9124
電話：019-629-5868
メール：AG0003@pref.iwate.jp